

修学院小学校運営協議会だより

第22号 学校運営協議会理事長 青木 克之 修学院小学校長 村山 雅彦

令和2年11月 6日発行 家庭数配布



爽やかな秋風を受け、秋も深まりを感じられる季節となりました。平素より、修学院小学校運営協議会にご理解とご支援をいただきありがとうございます。さて、今年度は、新型コロナウィルス感染症予防、また感染症拡大防止の対応策としまして、3密を避けた取組を進めてまいりました。

子どもたちも、保護者・地域の皆様も楽しみにしておられる行事も、形を変え実施する運びとなり、これまで以上にご理解とご支援をいただいておりますこと、感謝いたしております。

さて、2学期のまとめの時期となりました。これまでを振り返り、子どもたちのため、よりよい学校づくりを目指し、3学期に向かってまいります。今後ともご支援賜りますよう、よろしくお願いします。

学校安全環境委員会

学び支援委員会

開かれた学校委員会

例年、学校運営協議会だよりにおいて、今までの活動をお知らせしておりました。

自転車教室や、ウッドデッキの補修作業、安全点検活動、きらら給食、お掃除おしえ隊など、子どもたちと共に活動したり、直接関わったりする取り組みが多くありました。

学校運営協議会の理事を始め、委員の方々と検討に検討を重ねた結果、子どもたちの安全確保が第一と考え、今年度は、多くの取り組みを見合わせることといたしました。

今後の取組としましても、毎年恒例となっておりました『本のリユースフェア』も、本の回収・消毒・準備・選書など、どうしても3密を避けることができないと判断し、実施を見合わせることにいたしました。

何年も続いてきた行事が行えないことは、非常に残念ではありますが、手元にある本が、また新たな持ち主に届くまで、大切に保管しておいていただけたらと思っております。

しかし、子どもたちと直接関わらない形でありながら、子どもたちのために何かできることはないかと考え、11月7日（土）に、PTAやおやじの会の方々のご協力を得、教室の換気扇の清掃活動を行うことといたしました。

子どもたちが安心して学校で学べる環境づくりができたらと、考えております。

今後も子どもたちのために、できることを考えながら、安全に留意し活動を進めてまいります。どうぞ、皆様方もお体ご自愛ください。

修学院探訪

コロナ禍に寄せて！！ 古代の疫病退散術！

医術を持たない古代人は、疫病退散をひたすら祈るしかありません。幅1.3cmの穴の開いた小さな木の板に「蘇民将来（そみんしょうらい）の子孫なり」と墨書きされています。長岡京の道路側溝から出土したことから平安京遷都（794年）直前の国内最古の蘇民将来札です。

牛頭天王（スサノヲノミコト）が妻探しに南海に旅した時、一宿一飯を快諾した蘇民将来に茅の輪を授け、無病息災を約束したことに期限があります。

祇園祭の粽（ちまき）にもこの護符がついています。

（小池 寛）



開かれた学校委員会 コミュニケーションシート（学校アンケート）より

今年度、新型コロナウイルス感染症予防のため、3密を避けるため多くの行事を見直ししております。年度初めも、6月までの休校により、なかなか学校の取組もはっきりと示せていないようなまま、1回目の学校評価アンケートの実施となりました。評価が難しい状態でありながらも、保護者の皆様にご協力いただけたことを感謝申し上げます。

このアンケートの結果の分析を元に現状を把握して学校の取組に生かし、修学院小学校がよりよい学習環境となり、子どもたちが「修学院小学校が大好き」「学校が楽しい」と心から思えるよう、今後も取組を進めてまいります。お忙しい中アンケートへのご協力ありがとうございました。どうぞ今後とも、ご支援くださいますよう、よろしくお願ひいたします。

また、学校運営協議会の『開かれた学校委員会』において、昨年度、アンケート内容を検討、実施したものと比較しながら、アンケートの結果分析を行いました『確かな学力』『豊かな心』『健やかな体』の各項目から抽出してお知らせさせていただきます。

確かな学力定着に向けて～家庭学習と 読書の習慣を～

＜結果＞

昨年度同様、全ての項目において、肯定的な評価を得ることができている。

特に、『家庭学習への取組』『読書』について、しっかり取り組むことができている児童が昨年度より6～7%増えている。これは、保護者についても同じで、『家庭学習や読書について言葉かけをしている』ことへの肯定的な評価が4～7%増えている。

しかし、『できていない』と答えている児童の存在も大きく、高学年で34～38%、低学年で20%の児童が、できていないと答えており、手立てが必要である。

＜分析＞

コロナ禍で、学校の休校や保護者の方の在宅勤務などで、お子たちの学習の様子を見る機会が増え、普段より声かけをしていただいた結果かと考える。

また、家庭学習や読書への取組について、その方法が分からぬ児童もいるのかも知れない。

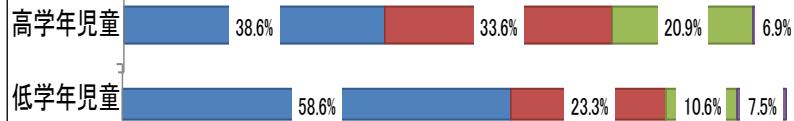
＜学校より＞

休校中、学習への不安も大きかったとは思いますが、各ご家庭の教育力や教育への関心の高さを感じることができました。保護者の方の声かけもあり、家庭学習や読書について、児童も意識ができ、取組への意欲も高まったようです。今後は、家庭学習の取り組み方を、分かりやすく提示し、それぞれの児童の個性に合った学習に取り組んでいけるような方法について保護者の方ともしっかり相談・検討することで、『できていない』と答えている児童が、意欲的に学習に取り組むことができるよう、きめ細やかな指導を行ってまいります。

家庭では、自学自習の習慣が着くよう、言葉かけをしている。



家庭でも、毎日、時間や内容を決めて学習を進めている。



家庭では、読書習慣が着くよう、言葉かけをしている。



学校だけでなく、家でも読書を楽しんでいる。

豊かな心を育むために～人を大切にするために～一人一人ができること～

<結果>

昨年度同様、全ての項目において、肯定的な評価を得ることができている。

『あいさつ』について、『自分からあいさつができるか』という項目では、昨年度より否定的な評価の割合が増えている。保護者の評価は、昨年度と同じポイントであったが、高学年の保護者で17%、低学年の保護者で34%ができるないと判断。

『学校での出来事』について、95%以上の割合で、保護者は意識して聞くよう心がけているとの評価があった。児童も、高学年では92%、低学年で81%の児童が学校であった出来事を伝えていると答えている。これは、昨年度より10%（高学年）も改善されている結果となった。

しかし、低学年では、まだ19%ほどの児童が伝えられていないと感じている様子が見られる。これは、教師にも同じで、11%の低学年児童が、教師に自分のおもいを受け止めてもらえていないと感じている傾向が見られた。

<分析>

マスクを着用しているためか、学校でも飛沫につながるため大きな声を出さないよう指導していることもあり、『あいさつ』がしにくい状態のかも知れない。

『確かな学力』の評価同様、コロナ禍で、各ご家庭で、お子たちと接する時間や話す機会が増えた結果ではないか。

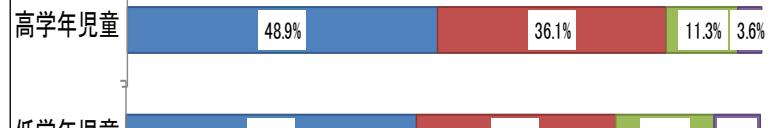
<学校より>

確かに、マスクを着用している状態では、話しにくい状態ではあります。『大きな声を出さない』指導のため、朝のあいさつも、給食のあいさつも、「心の中で」言うよう指導している部分もあるため、あいさつの習慣が薄れていますのかも知れません。目を見て会釈することや、立ち止まって目を合わせ、手をしっかりと合わせて心を込めるなど、新しい生活習慣の中でのあいさつの仕方を示していきたいと思います。また、低学年児童が、保護者の方にも、教師にも学校での出来事や自分の思いが伝えられていないと感じているようです。低学年では、まだまだ自分の気持ちを言葉で表すことは難しいのかも知れません。大人が想像力を働かせ、何を伝えようとしているのかを読み取ることで、つながりを深めて行くことが大切ではないでしょうか。

子どもは自分から挨拶ができている。



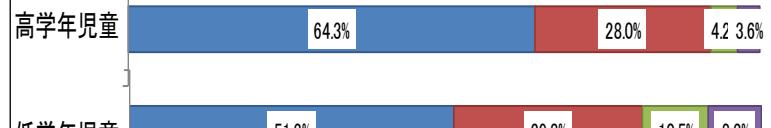
誰にでも、進んであいさつをしている。



家庭は、学校での様子を子どもから聞くよう心がけている。



学校であった出来事(良いことも、良くないことも)を、家で伝えている。



健やかな体で楽しい毎日を～よりよい学校生活は、健康な体づくりから～

＜結果＞

全ての項目において、昨年度同様の肯定的な評価を得ることができている。

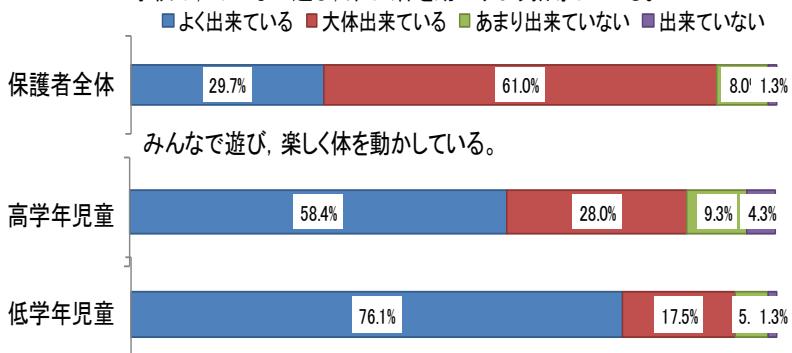
『生活習慣』について、高学年児童が、生活のリズムを大切に過ごしていると答えている割合が昨年度より5%増えている。逆に、低学年児童は4%減っている。

『外遊び』『安全に過ごす』項目に関して、どちらも高評価ではあるが、低学年児童が肯定的な評価が上がっていることに対し、高学年児童が2~3%下がっている。

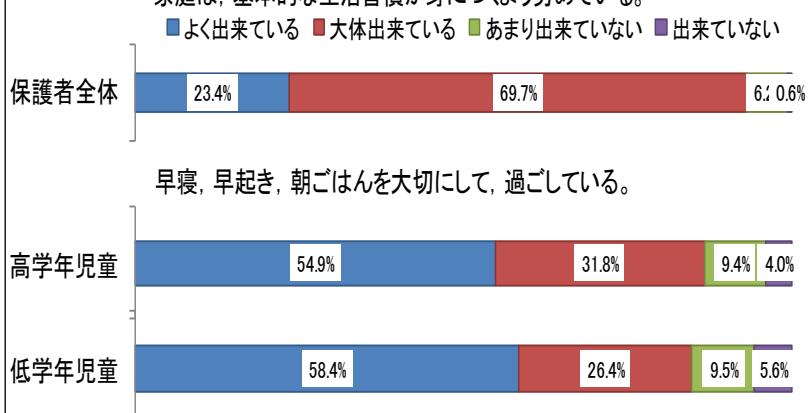
＜分析＞

『外遊び』がなかなか実施できなかつたことも一因だとは感じるが、その発散できない思いが行動となり、安全に学校生活を送るよう意識することが薄れてしまっているのかもしれない。一方、高学年児童は、生活習慣が大切だと意識できるようになっているところが喜ばしい結果である。

学校は、みんなで遊び、楽しく体を動かすよう指導している。



家庭は、基本的な生活習慣が身につくよう努めている。



＜学校より＞

何でも『コロナ禍』で済ませるつもりはありませんが、『安全に対して』『自分や人の命を守ること』を意識することがとても大切な状況です。お子たちの様子を見ていると、思うように遊べないことや、発散する場がないことなどがストレスの原因となっていることも、十分わかっています。しかし、「どの子も無事に、元気に過ごしてほしい」と教職員一同心から願っております。だからこそ、『今できること』をしっかりと考えられるよう、「わかる」から『できる』子を育てていくことに、責任を持って取り組んでまいります。

開かれた学校委員会の委員の皆様より

- ◇文部科学省によると、学校評価により期待される取組と効果について、『学校評価により、学校が自らその改善に取り組むだけでなく、その報告や公表等を行うことによって、学校の全ての関係者と課題を共有することができ、さらに保護者や設置者等に支援を求めることができるようになるとともに、学校・家庭・地域それぞれの教育力が高められていくことが期待される。』と示されています。しっかりとその意図を理解し、よりよい学校作りに活かしていくことが大切。
- ◇未曾有のコロナ禍、学校の閉鎖や行事の中止等、最終学年である6年生の心境を考えるたび、胸が痛む。年度後半には、インフルエンザも相まって、益々状況が厳しい方向に向かうと思うが、小学校での思い出作りのため、全て「コロナ禍」で一括りにせず、小さなことの積み重ねを大切にしていただきたい。
- ◇保護者の自由記述欄こそ検討課題があると考える。%の値の変化で学校や児童の現況を読み込むことは難しい。自由記述欄に記述されている、今後の学校運営に反映できるような内容について、みんなで検討していきたい。